



みんなで育てよう!

vol. 2

理念

私たちはいつも何が子どもにとって一番大切なことを考えて医療を提供します。

モットーとする言葉

愛情、信頼、誇り

基本方針

- ☀️子どもの立場にたった小児救急医療の充実に努めます。
- ☀️心身両面から専門的な診療を行い、フォローアップします。
- ☀️子どもの人権を尊重し、みんなで子育てを支援します。



荒木副院長のご挨拶

皆さん、初めまして。4月から副院長として中野こども病院の仲間入りをする事になりました。「初めまして」とはいつものもの、今年の3月までは近くの済生会野江病院におりましたし、その前は関西医大滝井病院で働いていましたので、ご存知の方もおられるかもしれません。今回「中野こども病院」という小児専門の病院で働くことをとても楽しみにしています。

小児科は「こどもたちの心と体の総合診療科」です。単に体の病気を治すだけではなく、「いつも何がこどもにとって一番よいことか」を考えて、全てのスタッフがチームを組んで全力で取り組む、その一員として働くことを大変うれしく思います。

私の専門分野は「小児神経」で、てんかんや発達遅れ・偏りを持つこどもたちを中心に診察させていただいています。「発達症」といわれる発達偏りは、決して特別なことではなく、私も含めほとんど全ての人が何らかの「偏り」を持っています。その「偏り」に気付かれず、周囲が対応を誤ると、症状が悪化して悪循環に陥ってしまいます。なるべく早い時期に、こどもたちが「困っている」ことに気づき、支援、療育、治療などを行うことで、その子がよりよい人生を歩むことができるようにするのが私たちの使命だと考えています。

まだまだ不慣れで、ご迷惑をおかけするかもしれませんが、今後いっそう信頼される病院を目指して頑張りますので、皆さんのご支援をお願いいたします。



中野こども病院 副院長
荒木 敦

小間井看護部長のご挨拶

このたび、看護部長に就任いたしました小間井です。

私は平成22年3月より、中野こども病院に看護師長として採用され、24年から副看護部長として、主に職員教育責任者と労務管理者として役割を果たしてまいりました。

中野こども病院は、小児救急告示病院として365日24時間、病気のこどもを受け入れています。看護職は24時間、こどもの最も身近な存在であるため、病気のこどもやご家族に寄り添い、一日も早く病気が回復できるように関わります。そして、家庭に帰ってもご家族が安心してこどもの健康管理ができるように、それぞれの専門職が協働し、子育て支援に努めています。

こどもとは「環境との相互作用の中で生活し成長・発達し続ける存在」であり、人間として成長する基盤づくりになる大切な時期であり「限らない可能性をもつ存在」です。

こどもの運動、知能、コミュニケーション、情緒、社会性などの諸機能は小児期に著しく発達します。心身両面から専門的な診療・看護を行うことで、「入院してよかった」「こどもが成長した」と言っていただけのように、みんなで安全で質の高い看護を、心をこめて提供できるよう努めていきたいと思います。そして、小児専門病院の管理者として、小児保健・

医療・福祉、地域・学校との連携により切れ目のない良質な医療・ケアの提供と子育て支援を目指し、頑張っていきたいと思います。

今後とも皆さまのご支援をよろしくお願いたします。



中野こども病院 看護部長
小間井 和代

ワクチンって、 本当に効果があるの？

予防接種の本当の意味を知ろう！



病棟医長
石井 紘介 医師

4つの「予防」を知ろう

予防接種はこの10年間で大きく変わりました。髄膜炎予防のヒブワクチンと肺炎球菌ワクチンに始まり、ロタウイルスワクチンはまだお金はかかりますが、6年前から希望者には受けられるようになりました。最近では水ぼうそうワクチンとB型肝炎ワクチンが定期接種となり、0歳児の予防接種スケジュールは保護者の皆さんにとって、大きな影響が出ています。

ワクチンには①感染予防②発症予防③重症化予防④蔓延予防があります。具体的には、その病気に「かからないように」「かかっても症状が出ないように」「発症しても「症状が軽くなるように」、そして病気を「まわりの人にうつさないように」する。この4つの予防効果があります。

予防接種をしても意味がない？

よく「予防接種をしたのにインフルエンザになった」「自然に病気になったほうがよい」という保護者の方からの意見を聞きます。しかし、本当にそうでしょうか？ 病気に対してのワクチンがあるという事は、その病気がかかると、子どもたちにとって大きな負担となり、時には入院が必要になったり、合併症を引き起こしたりすることがあるので、ワクチンが開発されています。そこで、ワクチンの「予防」の本当の意味を紹介します。

2つの「免疫」を知ろう

ここまでは一人ひとりを守るための「個人免疫」と呼ばれます。しかし、さまざまな理由で「予防接種を受けたくても受けることができない人」もいます。多くの人が予防接種をすることで、病気を「まわりにうつさないようにする」ことで、家族内や保育園、幼稚園、学校での流行を防ぐことができるようになります。これを「集団免疫」といいます。

予防接種の「効果」を知ろう

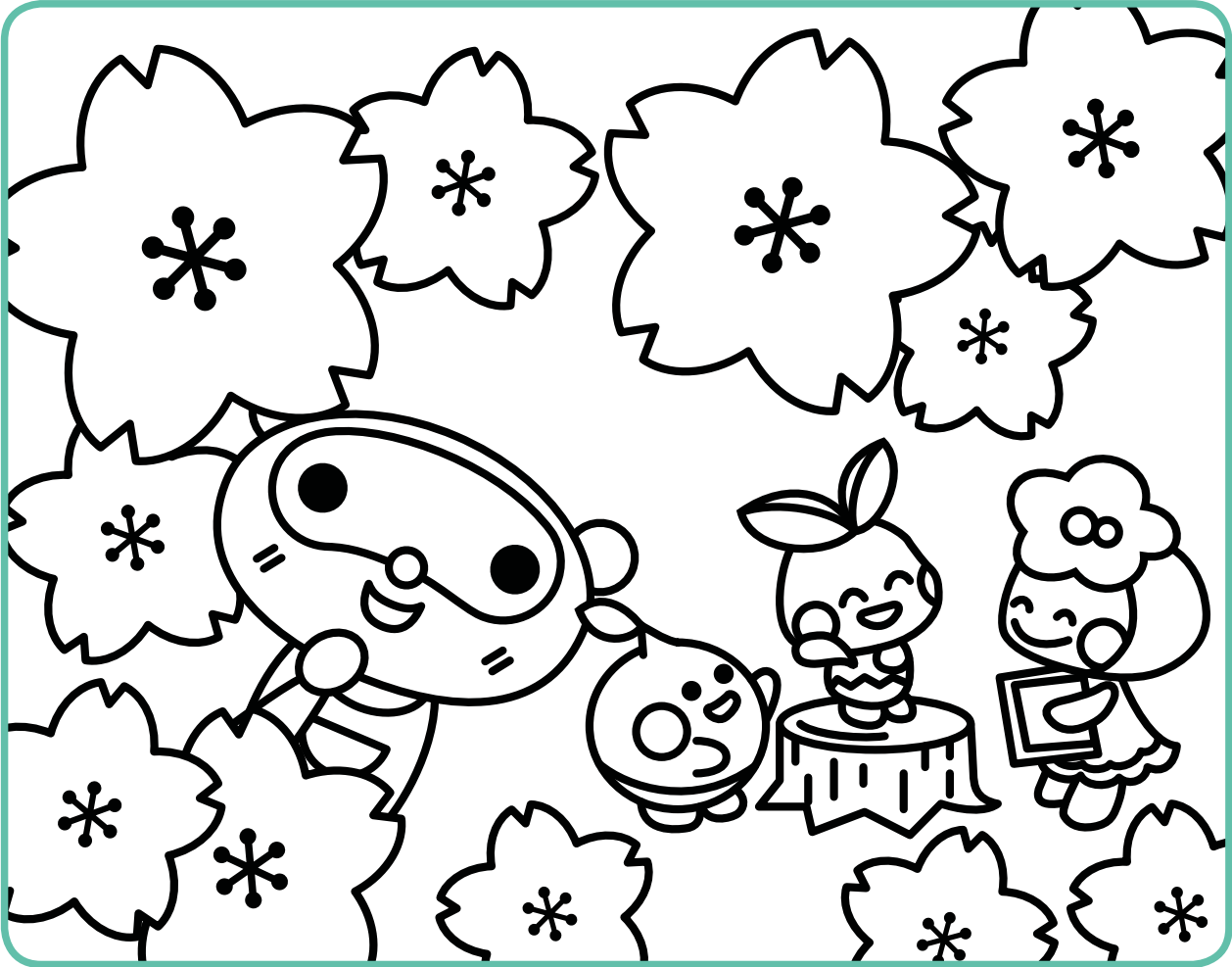
予防接種をすると「副反応」といわれる、「注射したところが腫れる」「熱が出る」ことがあります。これらは決して悪いことではなく、体がワクチンに対してしっかりと反応して免疫をつくっている証拠です。

そして予防接種の効果は目に見えませんが、すぐにはわからないことが多いです。しかし、細菌性髄膜炎や水ぼうそうになる子どもの数は、この10年間で大きく減っています。しかし、任意接種（費用負担がある）ワクチンのロタウイルス胃腸炎やおたふくかぜ、インフルエンザの患者さんはまだまだ多いのが現状です。

予防接種をすることで個人の健康を守り、結果として社会全体の健康を守ることが出来ます。健康と金銭は引き換えることはできません。「予防接種をしておけばよかったのに」とならず、子どもと家族の健康を守るためにもワクチンはおきまじょう。



お子さまと一緒にぬりえをしましょう！
「こども美術館係」までお送りいただきましたら掲載させていただきます。



にっこり

ともだちに あったら えがおで

あいさつしましょう。

だれかに にっこりされると

うれしくなります。

ふくれつつらや こわいかおを みると

みんな いやな きもちになります。

にっこり やさしいかおは きもちを

あかるくするのです。

まわりの ひとも たのしくなります。

にっこり えがおで きもちよく

おべんきょうや おけいこをしましょう。



にっこり えがおを わすれずに



いただきます

たべものを たべるときには 「いただきます」。
たべおわったら 「いただきますおしま」 と
なぜ いっのでしょつか。

それは いのちを もらってるからです。
そして おいめや ややうを つくるひと。
さかなを とるひと。うし ぶた とりを
そだてるひと。たべものを はじめるひと
うるひと つくるひと。うるんなひとの
ちからがなければ たべることは できません。
「いただきます」「いただきますおしま」は
かんしゃの こころです。



たべものを
たいせつにしましょう

めりえができれば
送ってね!
こちらのページに
掲載させていただきます

応募先

お名前、年齢、性別、ご住所、電話番号を記入の上、下記住所にご持参いただくか、郵送にてお送りください。
〒535-0022 大阪市旭区新森4-13-17 社会医療法人 真美会 中野こども病院 こども美術館係
TEL.06-6952-4771 ※ご応募いただいた作品とお名前をこちらのコーナーに掲載させていただく場合があります。ご了承ください。



Nakano Children's Hospital



来院されるごもごご家族が、スムーズに安心して受診できるように

医師と連携し

トリアージ件数100%を目指す

安全な小児医療のために

当院には、365日24時間、救急外来と専門外来を担当する看護師が計22名在籍しています。内訳は、6名の常勤と16名の非常勤看護師、夜勤専従看護師です。また、小児救急認定看護師や、小児アレルギーエデュケーター看護師も配置し、救急医療の質の向上を目指す役割と、小児アレルギー患者が治療方針の決定に参加し、決定に従って治療を受けること（アドヒアランス）の向上に努めています。



患者さまの重症度に基づいて、治療の優先度を決定、選別するトリアージは、看護師はもとより、医事課受付担当者も勉強会を実施しています。医事課受付担当者も問診票や受診理由を確認し、気になる情報は、速やかに看護師に伝え、直ちにトリアージを始められる体制が整っています。そのため救急搬送時に重症患者が軽傷とみなされるアンダートリアージはありません。トリアージ件数100%を目指し、安全な小児医療の推進に日々取り組んでいます。

医師との連携を密に

診察前の医師とのミーティングでは、外来患者さまの動向や入院患者さまの現況などを詳細に報告し、円滑な診察ができるよう心掛けています。外来診療には情報の共有が重要です。医師の意見を参考にするとともに、「紹介いただいた患者さまを介して、看護部内でも密に連携を取りながら、医療・看護ニーズの多様化や高度化に迅速・丁寧に対応していきたいと考えています。

神田さんがレポート



神田 雅代 師長

1日平均160人ほどの患者さんが訪れ、その大半が急病での初診の患者さんです。0歳から15歳まで幅広く、実際の患者さんの様子を見極め、さまざまな発達段階に応じた対応や看護ケアの提供が求められます。日ごろからスタッフ一同がお子さんの不安や恐怖心を和らげ、保護者が安心して診察を受けられるケアを実践し、「家族の立場に立って考えよう」という基本姿勢のもと、感染防止対策を含めた安全を最優先にした指導を行っています。

外来では処置が済んだ方や、入院後の患者さんとの接点は少なくなります。そのため、外来で関わった患者さんが、定期通院や退院後の診察に来院され、元気に成長した姿を見せてくれたとき、やりがいを感じます。



トピックス TOPICS

「おひなまつり」を 開催しました!



3月の行事は「おひなまつり」でした。
女の子も男の子も、一緒に日々の成長をお祝いしました。乳児は内裏びなに変身する冠を、幼児は内裏びなの飾りがついたパーパーバックを作りました。

製作の後には内裏びなの顔出しパネルで写真撮影をしたり、保育士手作りのガラガラなどで遊んだりしました。顔出しパネルでは、



参加したこどもたちが保護者の方にかわいい写真をたくさん撮ってもらっていました。



絵本紹介



乳児向け



幼児向け



学童向け



『おべんとうバス』

作 | 真珠まりこ (さく・え)
出版社 | ひさかたチャイルド

あらすじ

誰も乗っていない真っ赤なバスがあります。そこに乗りこむのは、ハンバーグくんやえびフライちゃん、たまごやきさんなど、お弁当の定番おかずやおにぎりさんたち。お弁当に入っている定番のおかずたち。名前を呼ばれると「はいー」と元気よく返事をして乗っていきます。野菜とフルーツと一緒に、さあ、しゅっぱつだ!

保育士よりおすすめ POINT

きれいな色づかいのかわいい絵と、リズムカルな会話は、あかちゃんから楽しめる絵本です。こどもも、思わず手をあげて「はいー」と言ってしまうような、楽しい気持ちになれる1冊です。

『ショコラちゃんはおいしゃさん』

作 | 中川 ひろたか (文) はた こうしろう (絵)
出版社 | 講談社

あらすじ

ある日、リリリリン! と電話が鳴り、ショコラちゃんはなんとアフリカへ行くことに。聴診をしたりお薬を作ったり、ショコラちゃんは大忙し。動物たちが元気になったと思ったら……リリリリン! また電話が。今度は誰でしょう? かわいいイラストにも注目してください。

保育士よりおすすめ POINT

「こんなことできたいいな」といったこどもの想像力を広げてくれるショコラちゃん。日常から大胆に飛躍する、ゆかいな展開に、こどもも読んでいる大人も楽しくなる素敵な作品です!

『バムとケロのおかいもの』

作 | 島田ゆか (作・絵)
出版社 | 文豪堂

あらすじ

人気のバムとケロシリーズです。水曜日。いつも朝寝坊のケロちゃんが今日は早起きです。今日が月に一度のお買い物の日だからです。お友だちのあひるのかいちゃんも一緒です。みんなで車に乗りこみ、市場を目指して出発! たくさんのお店がある市場は、とてもにぎやか。ケロちゃんたちは、どんなお買い物をするのかな?

保育士よりおすすめ POINT

この絵本の魅力は、何といってもいいに細かく描かれた品物の数々です。店頭で置かれた商品やメニューを見ていると、読んでいる私たちが買い物をしたくなるから不思議! 親子で楽しめる1冊です。

心の コラム



感謝の気持ち、思いやりの心をコンセプトに編集された、1日1話の人材教育冊子『月刊朝礼』。わかりやすいエピソードを交えて、豊かに生きるヒントを長年にわたり世に送り続けています。人間力の向上が家庭を、職場を、そして社会全体を明るくします。

ほかほか言葉

Aさんは、仕事の帰り道、保育園の前を通ります。そのときに、子どもを迎えにきたお母さんの姿を見掛けることができました。

時々、お母さんと先生、子どもたちの声が耳に入ってきます。

「お帰りなさい。今日も元気にしていましたよ」

「遅くなってごめんなさい。いつもありがとうございます」

「お母さん、お帰り。ぼく、いい子にしてたよ」

何げない会話のなかに、お互いを思いやる気持ちがあふれていて、Aさんは心が温かくなりました。仕事で悩みを抱えているときも、そのようなやり取りを見たり聞いたりするだけで、心が癒されるものです。

「優しい気持ちを分けてもらったな」とAさんは思います。

たとえ自分に向けられていなくても、愛情にあふれた言葉は、聞くだけで心を温めてくれるものです。反対に、誰かを責めたり傷つけたりする言葉は、関係のない人までも暗い気持ちにしています。

誰しも、冷たい言葉よりは、温かい言葉が交わされる場所が過ごしたいと思うものです。職場や家庭での言葉遣いに気を付けましょう。



優しい言葉は

周りを温かくします

お兄ちゃんのひな人形

Cさんが休暇を利用して、実家に帰ったときのことです。リビングに、紙ねんどのひな人形が飾られていました。

「納屋を整理していたら出てきて、懐かしくて久しぶりに飾ったの」と母親が言います。Cさんが、小学生のときに作ったものです。

子どもは、兄であるCさんと弟だけなので、家にひな人形はありません。ある年のひな祭りの日、母親が次のように言うのを聞きました。

「もし女の子がいたら、おひなさまを飾れたのにね。私は子どものころ、買ってもらえなかったから、少し残念だわ」

そこでCさんは、「好きなものを作っていた」と言われた図工の授業で、ひな人形を作ったのです。母の日にプレゼントすると、とても喜んでくれました。そして翌年から、女の子のいないCさんの家に、ひな人形が飾られるようになったのです。

「下手くそで恥ずかしいから、飾りたいならきれいなのを買ってくるよ」

そう言うと母親は笑って言いました。「これが一番すてきだから、いらないわ」



行事ごとに

家族の思い出があります

予約サイトのURL

<http://ssc2.doctorqube.com/nakano-kids-hospital/>

※アクセス後の手順は画面がナビゲートします。

※QRが読み取れない場合は、お手数ですがURLをご入力ください。



メールアドレス登録のお願い

メールアドレスをご登録頂くと、順番が近づくと

【もうすぐメール】が送信されます。ぜひご登録ください。

[nakano-yoyaku@nakano-kodomo.or.jp] から

メールが届くように、ドメイン許可設定をお願いします。

【表紙写真】

アリスの国保育園 園児
新森中央公園
満開の桜の下にて

